

障がい福祉 ～未来に向かって進めよう!!～



佐伯 欣子 議員
(21政会・加西とも育つ会)

問 生活支援拠点の整備について。

答 地域生活支援拠点とは、障がい者の重度化や高齢化、親亡き後を見据え、住居支援のための様々な機能、具体的には相談、緊急時の受入れ・対応、体験の機会や場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくりなどを包括したものです。そのうち、令和5年度は独立型短期入所施設整備、緊急短期入所施設確保及び相談支援事業所整備の3事業について予算を確保し、事業を実施する事業所を早期に選定、補助を行います。

生活の場については、場所の確保や改修等を年度内をめぐりに実施します。また、相談の場については、新たな相談事業所立ち上げに限らず、既存事業所における相談員の雇用による相談支援体制の確保も実施したいと考えます。地域生活支援拠点は、第6期障害福祉計画において令和5年度末整備を目標としており、目標達成に向けて取り組んでいきます。

問 人材育成について。

答 医療的ケアが必要な方や行動障害を有する方、高齢化に伴い重度化した障がい者に対して専門的に対応する体制も確保したいと考えます。障害者自立支援協議会では6つの部会において様々な課題を毎月協議するとともに、障害者支援に関する研修を実施し、多くの方が参加されています。

す。単に相談に関わる人材の育成だけでなく、総合的な人材育成を継続的に実施したいと考えます。

問 居住支援について。

答 令和5年度に3事業を実施することにより、地域の複数の事業所が機能を担い、全体で地域生活支援拠点を整備する面的整備は完成すると考えています。整備後は運用状況をしっかり検証し、新たな課題に対しては自立支援協議会等でも協議して課題解決に向けて取り組みます。その上で、障がい者や家族に常に寄り添い、生活のしづらさを少しでも解消できるように、継続的に支援していきたいと考えます。

■その他の質問項目

- ・市長施政方針について

介護保険の負担軽減について



井上 芳弘 議員
(日本共産党)

問 介護保険についてお尋ねします。今回の補正を見ても、準備基金からの繰入れを減額措置をして、逆に準備基金への積立が行われました。令和4年度の補正による積立は1億1,000万円を超えていますから、基金残高は4億1,000万円を超える積立になっています。

次の介護保険料の算定等について、この大きな基金は、しっかり活用して現状維持ではなく、引き下げるという方向を、しっかり出せる状況だと思いますが、その点についてお尋ねしておきます。

答 基金の積立が非常に多額になっているということは認識をしています。この3年間については、第8期介護保険事業計画において、加西市の人口比率やこれまでのサービス利用状況等を検討した中で、介護保険料を決めてきたという経緯があります。

令和5年度は第9期介護保険事業計画の策定年度となっています。計画策定に当たっては、実際コロナによって利用がどの程度減ったかということも勘案しながら、利用したい方がきっちり利用していただけるようにした上で、基金の取崩しも目途に置きながら、介護保険料を決定していきたいと考えます。

意見 介護保険制度20年以上の中で最高の積立になっています。介護保険の準備基金というのは、どんどん積み立てていいと

いうものではなく、やはり3年間の計画期間の中でしっかり活用するという内容です。もう今それ以上に積み上がっているわけですが、しっかり生かして軽減の方向性を出していただきたい。



■その他の質問項目

- ・市長施政方針に関連して
- ・財政について
- ・小規模事業者への支援について
- ・国保の負担軽減について
- ・新中学校整備について